

統合失調症発症直前の人が見ている世界 —自己の不確実性と孤独な戦い—

新潟医療福祉大学看護学科 4年 辰口翔子
新潟医療福祉大学看護学科 金谷光子

【背景】

自己のあり様が「世界」対「自己」に二分していく統合失調者にとって、取り巻く全てのものや状況が不確実な存在となって自分を脅かす。それ故に、統合失調症者が持つ世界を理解する為には、その人がどのように他者や世界を見ているのかについて理解する必要がある。

しかしながら、精神医学に関する多くの文献は、医療者側から見た患者像とその記述に終始している。

今回、発症直前から発症に至るまでの内的世界がリアルに表現された病者の自伝を通して、統合失調症者の世界、とりわけ発症直前における自己の不確実性の高まりと、そのさなかで苦闘している病者の孤独な戦いを明らかにする。

【目的】

本研究の目的は、統合失調症発症直前の人が見ている世界を明らかにすることである。

【方法】

- 1) 研究デザイン：質的帰納的研究（事例研究）
- 2) 研究対象：小林和彦著、ボクには世界がこう見えていた 統合失調症闘病記、新潮社、平成23年。
- 3) データの収集方法：上記の文献内で、著者が大学を卒業してから入院に至るまでを発症直前とし、この発症直前の文章の中から、特に統合失調症に関連していると考えられる内容を抽出しデータとした。そのデータから分析・解釈するためのテキストを作成した。
- 4) 分析方法：テキストの中で、発症直前において文脈が類似している内容ごとに分類し、サブカテゴリー、カテゴリー、を導き出した。尚、カテゴリーの銘々は、出来るだけ病者の世界に立った言葉とした。

【結果】

研究対象者である小林和彦氏は24歳になる直前に母の死を経験した。母の死から「しっかりした頼りがいのある人間になろう」と考えたが、24歳になるとさらに仕事でのストレス、失恋という壁にぶつかった。その後から強迫的に企画書を書き始め、徐々にまとまりが欠如していった。ある日、世界が変容したと感じ、いない人の声も聞こえるようになった。その2日後、幻覚妄想状態との診断で入院となった。

データの分析・解釈の結果、小林氏が統合失調症発症直前に見ている世界は5つのカテゴリーに集約された。「考えが現実的ではなくなる」、「過剰に情報を集めそこに意味づけをす

る」というサブカテゴリーから『まとまりの欠如』というカテゴリーを導き出した。「自分を確実なものにしようともがき、誇大妄想へと発展する」、「不可能なことを実行に移そうとする」、「自己を確実にしようとするあまり、生活が破綻」というサブカテゴリーから『不確実性に対する孤独な戦い』というカテゴリーを導き出した。「全ての存在が自分の意志を知る、自分が中心の世界」、「恐怖を抱き安全な場所を探し求める」、「周囲が演技をしているように感じている」というサブカテゴリーから『世界に対する不気味さ』というカテゴリーを導き出した。「“テレパシー”を送ってくる人がいる」、「そこにいない多くの人の声が聞こえる」というサブカテゴリーから『狂宴（饗宴）のさなかにある』というカテゴリーを導き出した。「思ったことをそのまま口に出す」、「いらだちを行動にあらわす」、「いったん浮かんだことの通りにしか行動できなくなる」というサブカテゴリーから『思い浮かぶままに行動』というカテゴリーを導き出した。

【考察】

統合失調症者は、自己の不確実さを少しでも払拭するために“メッセージ”を集め、同時に周囲で起こる何気ないことを自分と関連させ、そこに大きな意味を見出すようになる。著者は、テレビで発言している政治家の言葉から刺激されて、「世界は自分が作った」と着想し、一方で不吉な思考が頭に浮かぶと、「世界や自分が消えてしまうのではないかと恐怖におののく。このような統合失調症者のありようや振舞いは、他者から見ると一体誰と戦っているのか理解に苦しむことになり、周りの者との共通な言葉を持つことが出来なくなる。

さらに、自己の不確実性は、他者から評価され意味づけられる状況へとおかれ、他者や世界は自分に害を与えるものとなる。このような世界の中では安全な場所がどこなのか、そもそも安全な場所があるのか判断出来ず、病者はひたすら自分が自分であろうとして孤独な戦いを続けることになる。

【結論】

統合失調症発症直前は、通常の防衛機制が破綻し、同時に、初めて経験する「世界」と「自己」の二分は、自己の不確実性を生んでいく。周囲に不気味さを感じ、混乱し、恐怖と不安の中でも自己であることを保とうとして病の世界で戦うことになる。

【文献】

- 1) 広沢正孝著、統合失調症を理解する 彼らの生きる世界と精神科リハビリテーション、医学書院、2007
- 2) 小林和彦著、ボクには世界がこう見えていた 統合失調症闘病記、新潮社、2011